

市浦地区地震ハザードマップ

地域の危険度マップ

地域の危険度マップとは

地域の危険度マップは、五所川原市で想定される最大震度の地震が発生した際の地域ごとの震度、建物の構造及び建築年次別の建物棟数の推計結果を利用して、過去に生じた地震による各地の建物の被害状況に基づく経験式により、50mメッシュ単位でメッシュ内の全壊する建物の割合(全壊率)を算出し、その結果を5段階で地域の危険度として示したものです。この危険度が高い地域ほど相対的に被害を受ける建物が多いことを示します。

| 地域の危険度 | | |
|--|-------|--------------------|
| 表示 | ランク | 地域内の建物の中で全壊する建物の割合 |
| ■ | 危険度 5 | 全壊率 30%以上 |
| ■ | 危険度 4 | 20～30%未満 |
| ■ | 危険度 3 | 10～20%未満 |
| ■ | 危険度 2 | 5～10%未満 |
| ■ | 危険度 1 | 5%未満 |



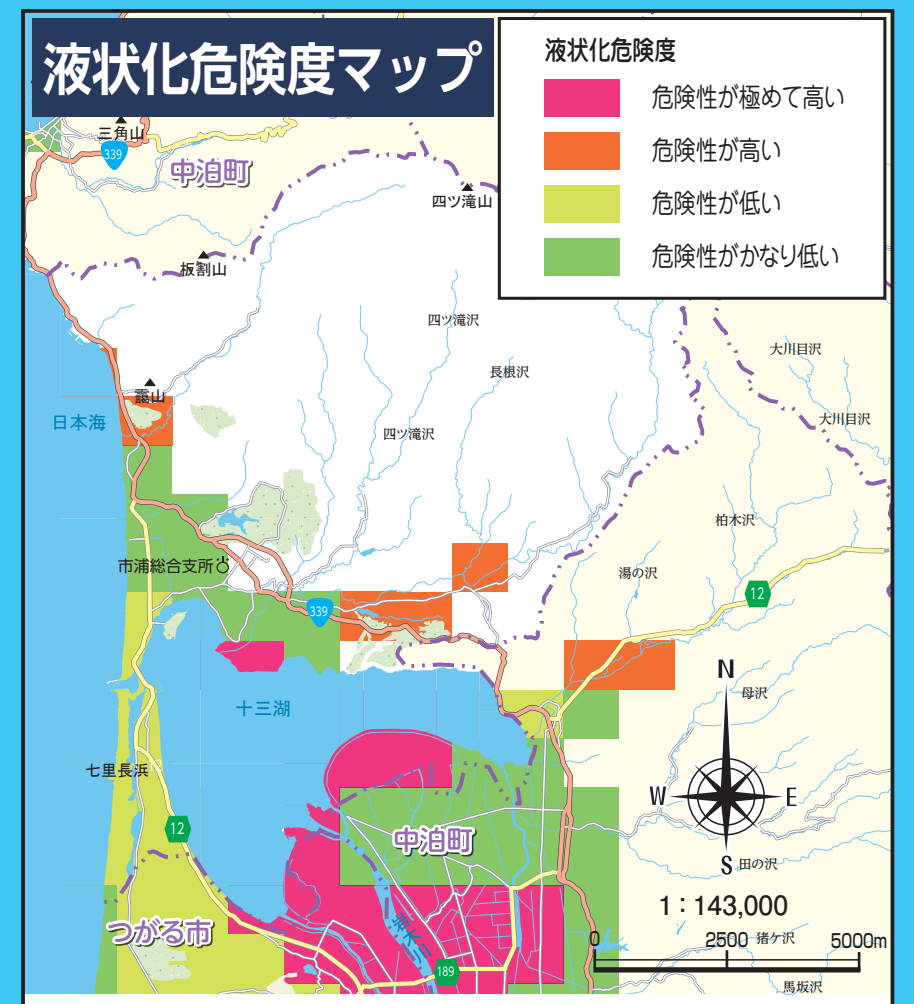
ゆれやすさマップ



ゆれやすさマップとは

ゆれやすさマップは、五所川原市付近を震源とする地震(地震の規模:マグニチュード7.3)が発生した場合に、市内各地域の地盤の状況から、地域の地盤の地表のゆれやすさを震度として評価し、50mメッシュ単位に表示した地図です。

液状化危険度マップ



液状化危険度マップとは

液状化危険度マップは、平成7～9年に実施した青森県地震・津波被害想定調査結果に基づき、大きな地震が発生した場合の表層地盤の液状化の危険性を示したものです。この地図では、市内の地盤の液状化危険度を、1kmメッシュ単位で4段階に分けて示しています。

昭和58年日本海中部地震による被害

昭和58年(1983年)5月26日正午、本市の西南西110km(秋田県能代市の西方沖)の日本海で、マグニチュード7.7の「日本海中部地震」が発生しました。

この地震は深浦町で震度5、青森市で震度4を観測するとともに、直後に津波が日本海沿岸へ襲来しました。

本市でも市浦地区の十三湖河口付近で、津波により6名の犠牲者を出したほか、低地の一部では地盤の液状化が発生し、農地や都市基盤施設、ライフライン等に被害を生じました。住家では、五所川原地区で113棟、金木地区で68棟、市浦地区で95棟(うち全壊2棟)の被害が生じています。

昭和58年日本海中部地震における本市の住家被害

「日本海中部地震災害の記録(青森県)」より

| 地区名 | 住家被害 | | | | |
|--------|------|-----|-------|------|---------|
| | 全壊棟 | 半壊棟 | 一部損壊棟 | 被害計棟 | 被害額千円 |
| 五所川原地区 | 0 | 15 | 98 | 113 | 143,100 |
| 金木地区 | 0 | 5 | 63 | 68 | 99,150 |
| 市浦地区 | 2 | 35 | 58 | 95 | 206,100 |
| 合計 | 2 | 55 | 219 | 276 | 448,350 |



写真：市浦地区の海岸(十三湖大橋西側)に建てられた津波犠牲者の慰霊碑